

# 1. 資金面の協力

- (1) 東日本大震災対策本部（本部長：米倉会長）の設置（3月14日）と同時に、経団連ホームページや1%（ワンパーセント）クラブニュース等を通じ、企業・団体に対し、義援金・支援金等の協力を呼びかけ
- (2) 企業が表明した義援金・支援金、救援物資等は約1,000億円（各社HPのプレスリリース等を集計）
- (3) 中央共同基金会の指定寄附金、JPFの助成先選定に参画

【経団連／1%クラブから協力をお願いした義援金・支援金】

種別	資金の性質・用途	8月中旬迄の受付総額
義援金	被災者に対し、直接配分される見舞金	約3,170億円
支援金(ボランティア活動資金)		
「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」(支援P*)	災害ボランティアセンター立ち上げ・運営費、NPOコーディネート費、企業人ボランティア活動費	約7億円
指定寄附金「赤い羽根災害ボランティア・NPO活動サポート資金」	被災地等での救援・支援活動等を行うボランティアグループやNPOの支援	約29億円
「ジャパン・プラットフォーム」(JPF)	NGO等の被災地等に係る活動費(「共に生きる」ファンド)等	約65億円

\* 支援P：災害発生時のボランティア活動が円滑に推進されるよう支援する組織で、社会福祉協議会や共同募金会、NPO等で構成され、1%クラブも参加している。

【義援金の配分基準 義援金配分割合決定委員会(事務局：厚生労働省)より】

対象世帯	第1次配分 (4/8決定)	第2次配分 (6/6決定)
死亡・行方不明	35万円	第1次と同じ配分割合で自治体に送金**
住宅全壊・全焼	35万円*	
住宅半壊・半焼	18万円	
配分金額	約898億円 (8/22時点)	約1,963億円 (8/22時点) ***

※実際に被災者に渡った義援金は約1,523億円 (義援金受付総額の約48%：8月12日現在)

\* 福島原発30キロ圏内の住宅も全壊と同じ扱い

\*\* 被災者への実際の配分額は自治体の裁量

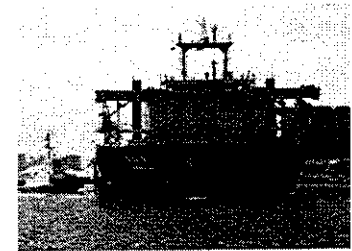
\*\*\* 残額は今後新たに判明した被害に対し配分するため留保

## 2. 救援物資等の協力

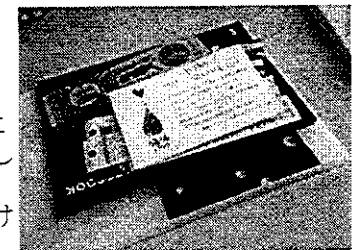
- (1) 被災地の県知事等とホットラインを構築し、企業・団体の協力を得て、被災地が必要とする救援物資を届ける「救援物資ホットライン便」を実施（経団連として初めて実施）。約300トンの救援物資を岩手県、宮城県、青森県にお届け
- (2) 現地の災害ボランティアセンターに対する資材提供等の協力  
(プレハブ資材、自動車リース、自転車、IT機器等)
- (3) 「うるうるパック」の提供協力 (学用品、化粧品等)

【「救援物資ホットライン便」の実施】

ルート	輸送協力等	企業等への協力依頼～物資受付期間	提供社数	主な送付物資
海	日本郵船・青森県	3/18～3/27	47社	食料品、生活用品、衛生用品等
空	全日本空輸・秋田県	3/22～4/1	23社	生活用品、衛生用品、乳児用品等
陸	日本郵船グループ	4/1～4/25	36社	日用品、衣料品、化粧品、電化製品、調味料等
自衛隊	自衛隊・東京都	3/23～3/25	2社	飲料水、総合栄養食品



救援物資を運ぶYAMATAI (写真提供：日本郵船)



うるうるパック (小学生向け)

【「うるうるパック」の提供】

- ・生活に必要な物資を被災地外で集約し、被災地で各世帯に配付できるよう、小分けに袋詰め。被災者を応援する気持ちをお届けし、被災者とのコミュニケーションツールとして活用
- ・第一弾：4月8日、宮城県女川町等の小中学生(学用品等)や女性(化粧品等)をお届け
- ・第二弾：5月9日、宮城県七ヶ浜町の小中学生に弁当箱や学用品等をお届け

### 3. ボランティアの協力

- (1) 「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」（「支援P」）と連携し、4月下旬から「企業人ボランティアプログラム」を実施
- (2) 電子情報技術産業協会（JEITA）などICT関連団体とICT支援応援隊を立ち上げ、PCやLANなどを無償提供
- (3) 「うるうるパック」の詰め合わせ作業等のボランティアを募集

#### 【企業人ボランティアプログラム】

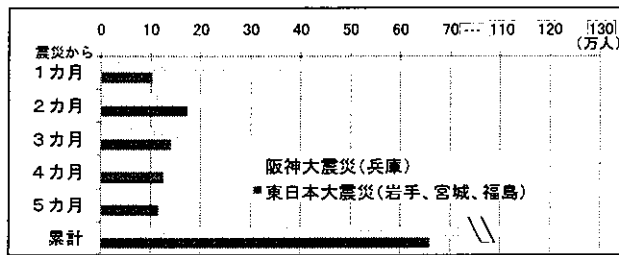
- ・支援Pと連携・協力の下、企業人をボランティアとして岩手県、宮城県、福島県の被災地へ継続的に派遣。
- ・4月25日から連休中・梅雨時を除き8月上旬まで実施。各回3日間活動、これまで49社より延べ約2,100名が参加。

#### 【ICT支援応援隊】

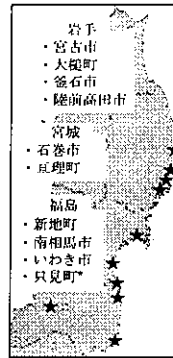
ICT産業界関連の8団体が4月に設立。約3カ月の活動を通じ、PC1,475台、プリンタ313台、LAN回線107回線を提供。多くのボランティアが現地でICT回りの作業を支援。

#### 【うるうるパック袋詰めボランティア】

東京・名古屋で実施し、80社・団体から約530人が参加。袋詰め作業やメッセージカードの作成を実施。



災害ボランティアセンターで受け付けたボランティア活動者数の推移（兵庫県、全社協調べ）



ボランティア活動地域  
\*2011年7月末の新潟・福島豪雨災害の対応を含む



企業人ボランティアプログラム活動の様子



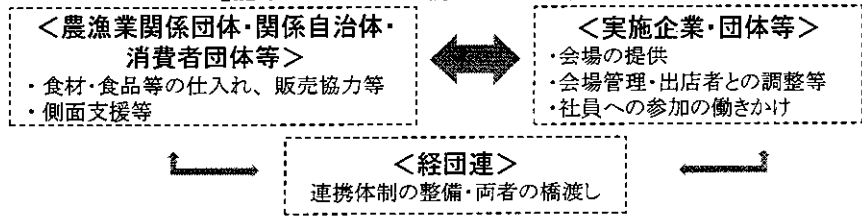
うるうるパック袋詰め作業の様子 3

### 4. 農水産物・食品の消費回復を通じた被災地支援

被災あるいは風評被害等で深刻な打撃を受けている関東・東北地方の農水産業者・食品関連事業者を支援

- (1) 経団連において、関係自治体、農業関係団体、消費者団体等との連携体制の整備
- (2) 企業等に対し、企業マルシェ（産直市）開催や各社の社員食堂で、製品を使ったメニューの提供等呼びかけ

#### 【企業マルシェの連携・協力体制】



企業マルシェの様子

#### 【取り組みの実施状況\*】（8月1日現在）

- (1) 社員食堂での被災地応援フェア・応援メニュー等の実施
- (2) 被災地応援企業マルシェの実施

18社・グループ  
25社・グループ

\*経団連に報告があった事例を集計。複数社での共同開催や1社で複数回開催している事例あり

**第34回隅田川花火大会（8月27日開催）に、被災者約520名を招待するとともに、  
「東日本大震災復興祈願花火」の打上げに協力**

第34回隅田川花火大会は、震災犠牲者への慰霊と早期復興の願いを込めて開催。  
経団連では、花火大会実行委員会と連携し、復興支援特別事業を企画・実施。

**【被災者の招待】**

市民協賛席のうち550席を特別観覧席として確保し、ご招待。

- ・被災地（青森県、岩手県、宮城県、群馬県、茨城県等）からの招待 約220名
- ・都内避難場所（国家公務員宿舎東雲住宅入居者\*）の希望者 約250名
- \*福島県南相馬市、富岡町、浪江町からの避難者
- ・釜石市少年野球チームの学童等 約50名

**【東日本大震災復興祈願花火】**

「東日本大震災復興祈願 被災地へ贈る 追悼手向けの花」約1,100発を打上げ

**6. 今後の取り組み（予定）**

- (1) 今後とも、被災地ニーズに即した取組みを実施
- (2) 会員に対し、被災者・被災地支援等に係るアンケートを実施（9月予定）
- (3) 来年3月を目途に、経済界の被災者・被災地支援に係る報告書を作成予定  
⇒引き続き、会員企業・団体の皆様方のご協力をお願い